

はなさで、園池殿へは送り給ふといへば、醫も驚き、何として知れたるといふに、右の由を話て笑ひける。此事三位殿聞給ひ、浦井に見せよとて、

はり先にかゝりし魚をその池へはなせばもとの浦井へぞ行

〔視聽草五集九〕板屋慶意話

一晝工板屋慶意、十年前松平隱岐守殿世子立丸より梅の鉢植を送られしに、毎年々に衰ことしは花色も不喚なりしが、五月十九日四過、他の草花を植んとて、梅をぬかれしに、土塊のごときもの轉び出したり、魚の形ある様なりとて、盆中に放したりしが、忽口明き一時計にして鱗尾鰐より鼻口等も、ことごくそなはり、睫時動出し口より泡を吹き、遂に鯉となるに、六月初に至まで盆中に畜置たり、後糀町の御溝に放と云。

〔二宮先生語錄〕獲鯉魚而鬻之市、則人必買之、割烹而食之、必曰美味、使人賞歎不已、顧其在江湖之日、凌風波忍寒暑、沈浮游泳、無晝無夜、運精氣於冥冥之中、以長焉、是豈非積艱苦於生前、而享榮賞於死後乎、人宜察此理、耐忍難苦、竭精力於生前、以所死後之榮賞也、

〔鶴衣前篇拾遺〕百魚譜

龍門瀧にのぼらんとする魚有りて、おほけなくも大聖の御子にも、此名をからせ給へる。されば世の名聲は、かの鯛にもならばんとす、かれはいかなる幸にかあらむ、味ひ美なりといへども、鯛の料理の品々なるには、くるべくもなし、乾物炙物にせず、鮓すましによろしからず、くずし蒲鉾に用ひ難く、鹽にも鮓にも調せず、只さし身あつ物にとまるは、多能を耻といひけんを、中々ほまれと思へるにや、

〔新撰字鏡〕鯈鰐同方音、赤尾魚

不奈、又堅魚

鰐布奈

鰐同奈

〔本草和名十六魚〕鯽魚仁譜音義

作鰐、音積

鯽布奈

鯽布奈

和名布奈